

○議長（森 弘秋君） 1 番 古川元規君。

○1 番（古川元規君） 古川です。私からは通告どおり、細川の水門自動化要請の対応について、ご質問 1 点させていただきます。

古海老江、竹鼻、海老江、仏生寺の 4 地区から細川の増水時の防災について、水門に自動調整機能を設置してほしいという要望が上がっております。その回答としましては、村と常東用土地改良区が協議したところ、水門の老朽化による対応はできるが、自動調整機能対応は実施できないということになったというふうに聞いております。一方、村としては、高野用水から細川への入水防止対策を立山土木と協議するというふうにも聞いております。

しかし、地区からの要望事由には、地区民の高齢化、日中人口の減少、また近年多発している集中豪雨も深夜に発生していることも少なくなく、水門の管理は危険も伴う困難なものになっていますという記載がございます。

また、近隣でも、立山町泉のほうで、本年、水門管理作業中に 1 名の方が用水に流されて、いまだ行方不明になっているという事故も起こっております。

入水防止対策もさることながら、住民の生命と財産を守るという観点からは、やはり私は水門に自動調整機能を設置することが必要ではないかというふうに考えます。

毎年全国どこかで「想定外の」と言われるような大規模な水害が発生しております。災害に強いとされる舟橋村ですが、多くの河川がこの狭い面積の中で密集し、洪水には弱いということは、先ほど議論にも上がりましたが、新しいハザードマップで明確に示されてきております。次に想定外の水害に見舞われるのが、ここ舟橋村ではないということは言い切れません。

そのようなことを踏まえまして、この「防災 4. 0」時代における防災にかける村長の思いと考えをお聞かせいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（森 弘秋君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 1 番古川議員の細川の水門自動化のご質問にお答えをいたしたいと思っております。

今年 7 月に古海老江・竹鼻・海老江・仏生寺の 4 地区自治会長さんから、細川増水時における防災対策として、細川に設置された水門を自動調整機能つきの水門にしてほしいとの要望をいただいております。

要望内容につきましては、4 地区の自治会長と協議を重ねたところ、要望の趣旨は、

細川が増水したときの対策であることから、水門の機能問題ではなく、高野用水から細川への入水に関わる防災対策ということで、自治会の皆さんから課題の合意をいただいております。今後は、河川管理者であります富山県立山土木事務所でその対応を検討していただく旨、お伝えをしたところであります。

一方、細川の水門の電動化のことでございますが、この水門は、昭和43年に常東用土地改良区が事業主体となりまして、県営事業として細川の改修工事の際に造られた施設でありまして、管理は用水路と同様に地元管理とされております。

したがって、水門を電動化にする場合は、国の補助対象事業の採択を得て実施することになりますが、当然ながら地元負担が発生をいたすこととなります。

これまで村内におけます水門の電動化実績を申し上げますと、土地改良施設維持管理適正化事業、これは国・県の負担割合がそれぞれ30%となり、舟橋村と地元の負担がそれぞれ20%で事業を実施するものであります。それを生かしまして、平成28年度には竹内地区が京坪川にかかる水門の電動化を実施いたしましたのであります。また、令和3年度では、舟橋地区におきましても、団体営基盤整備促進事業の採択を得まして、用水路・排水路工事に合わせて水門の電動化工事を予定しているのであります。

また、当該細川の水門電動化には、幾つかの課題があります。1つは、県管理の二級河川でありますので、対応窓口となります富山県立山土木事務所と、工作物等に係る占用申請を含めた協議が必要となることとなります。2つには、議員がご指摘のとおり、水利権の問題や施設の設置主体であります常東用土地改良区が、老朽の修繕には対応するものの、電動化には対応できないと回答されておりますので、まずはこれらの問題を解決することが大変必要となってまいります。

一方で、水門の電動化のために水門本体の改修を行う場合には、これらの課題解決を図る必要がありますが、水門の開閉作業の省力化に着目して進めるということであれば、既存の水門を生かした状態で自動化に対応する取付け可能な器具もありますので、選択肢を絞って、引き続き地元の皆さんと協議してまいりたいと考えております。

次に、議員ご指摘の、富山市の古沢用土地改良区における水管理システム、いわゆる防災4.0のことでございますけれども、水量センサーがありまして、パソコンで操作が行える画期的なものであるということは認識しております。

しかしながら、本村における導入となりますと、土地改良区が主体となり、舟橋村全体といった大きな枠組みでの導入が必要ではないかと、そのように考えております。

現在、デジタル化が進展する世情でありますから、農業者の高齢化や安全性を考えるならば、このような取組は近い将来必要であると思っておりますので、今後の調査研究テーマに組入れをいたしまして対処してまいりたいと、さように思っております。

以上のことを申し上げまして、私からの答弁とさせていただきます。